

# デイビッド・リックス

## イーライリリー会長兼CEO

### 自身関わった糖尿病の新薬が キャリアと経営哲学の原点

糖尿病や肥満症、アルツハイマー病などの領域で急成長し、2025年11月には製薬業界初の「時価総額1兆米ドル企業」となった米イーライリリー社。2026年5月中旬現在も、時価総額はジョンソン・エンド・ジョンソンやアッヴィなどの競合をしのぐ水準を保っている。

この躍進を支えたのが、イーライリリー会長兼CEOのデイビッド・リックス氏だ。新薬開発の「選択と集中」を進め、低迷していた同社の業績を回復させた。



2017年、CEOに就任したデイビッド・リックス氏

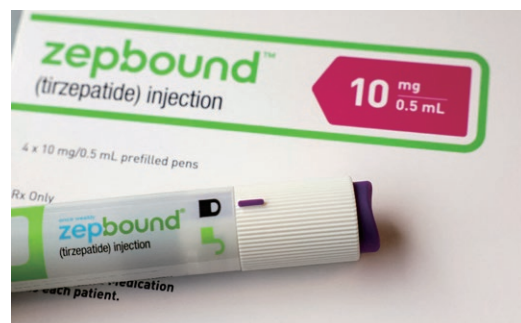
リックス氏は1967年、イーライリリー創業の地である米インディアナ州に生まれた。地元のパデュー大学卒業後はニューヨークのIBMに就職したが、パートナーの進学先である故郷に戻り、1996年にイーライリリーへ入社。事業開発アソシエイトとして仕事を始めた当初は「数年で別の道へ」と考えるも、糖尿病の実母に自身に関わる新薬が処方されたことに感銘を受け、同社でキャリアを積むことを決意。その後、営業・マーケティング部門で頭角を現し、カナダ法人、中国法人、米国部門などのトップを経て、2017年に同社CEO（同年6月に会長兼任）に就任した。

### 拡大する肥満症薬市場をリード 株価はCEO就任時から10倍超に

リックス氏が、イーライリリーでのキャリアを歩み始めた頃、同社は「特許の崖」（パテントクリフ）という危機に直面していた。主力の抗うつ薬「プロザック」や、抗精神病薬「ジプレキサ」などの特許切れの影響を受け、2010年代は業績が低迷した。

こうした中、新CEOに就任したリックス氏が打ち出したのは、「研究開発こそ企業の魂」とする同社の原点ともいべき「自社創薬」路線だ。ライバル各社がM&A（合併・買収）による成長を図る中、糖尿病、肥満症、アルツハイマー病、がんなどを重点領域と定め、革新的な新薬開発に挑戦した。こうして生まれた肥満症治療薬「ゼップバウンド」、アルツハイマー治療薬「ケサンラ」などが市場をけん引する存在となり、業績は拡大。CEO就任時は80米ドル台だった株価は、現在は10倍超の1,000米ドル前後で推移している。

「創薬は『カードがひっくり返り、その手が勝つか負けるか』という世界でもある」と語るリックス氏。2026年には新たに開発した経口肥満症治療薬が米国で承認され、さらなる成長への期待が高まっている。



足元の成長をけん引する新薬の1つであるゼップバウンド

革新的な新薬の開発で  
製薬初の「時価総額1兆米ドル企業」へ

#### Profile

デイビッド・リックス 1967年、米インディアナ州出身。1996年に米イーライリリー入社、2017年CEO兼会長に就任。革新的な新薬の開発を主導し、同社を「時価総額トップのヘルスケア企業」へと成長させた。米Chief Executive誌「CEO・オブ・ザ・イヤー」（2025年）受賞。米アドビ取締役、米ビジネス・ラウンドテーブルのメンバーなども務める。

主な参考文献：イーライリリー社オフィシャルサイト、日本経済新聞、『日経ビジネス』ほか

写真：ロイター/アフロ